

地域産業の振興

地域産業を育成・振興することは行政の力だけでは困難です。

先進的な地域では、どのように人材や資源を発掘し、どのように活用して成果を上げているのか、大学教授、地域のリーダー、自治体職員、起業家、メディア関係者、官僚、元銀行員など様々な講師から多面的に講義いただくとともにバス移動を伴う実地研修も実施し、地域産業の振興についての専門的な知識の習得と実務遂行能力の向上を目指します。

この研修は、申込期限までに定期人事異動の関係で受講者を確定できない場合でもお申しいただけます。

日程	令和6年6月10日(月)～6月14日(金) (5日間)
場所	市町村職員中央研修所(市町村アカデミー) 千葉県美浜区浜田1丁目1番地
対象	市区町村職員 中堅職員以上
定員	60名
経費	8,800円(食費を除きます。また、教材用図書費が別に必要となる場合があります。)
申込期限	令和6年4月9日(火)
申込方法	※当研修所ホームページの「募集中の研修」より申込みを希望する科目を選択し、「電子申込み」で申し込んでください。 ※FAXによる申込みは、令和6年度から廃止しました。 ※受講者が未定な場合でも、申込み可能です。

申込み・問合せ先

市町村職員中央研修所研修部

TEL 043-276-3126 URL <https://www.jamp.gr.jp>

※記載内容は、都合により変更となることがありますので、あらかじめ御了承ください。

研修のご案内は「JAMP Newsletter」でも配信しています。

登録はこちら 

JAMP Newsletter

検索

(<https://www.jamp.gr.jp/issue/mailmagagin/>)

6月10日/月

13:15 - 14:45

入所

15:00 -

オリエンテーション・開講式

16:30 -

課題演習

討議

翌日からのグループ討議を行う前段として、班ごとに分かれ、互いの地域や産業の特色、地域資源などを紹介し、受講生同士で交流を深めつつ、自らの地域の誇るべき点や直面する課題を客観的に見つめ直します。

9:00 - 12:00

講義

農村発のイノベーションを読み解く

法政大学現代福祉学部教授

関司 直也 氏

地域を維持し、次の世代に継承していくためには、地域での「しごとづくり」が不可欠ですが、行政が地域住民等と連携して、地域資源の発掘・磨き上げと他分野との組み合わせを通じて高付加価値化を進める「農村発のイノベーション」が内発的に展開される地域が各地で見られます。

本講義では、「農村発のイノベーション」が進む地域を多面的に分析するとともに、そういった地域で行政がどのような役割を果たしているのかを解説し、受講生が自団体で行政の立場で取り組むべきことを共に考えます。

13:00 - 14:10

講義

事例紹介 1
～「BABAME BASE」を
起点とした地域産業振興～

一般社団法人ドチャベンチャーズ理事

丑田 香澄 氏

人口減少・高齢化が日本一進むと言われる秋田県。秋田市から30キロ離れた五城目町の廃校を利用した「BABAME BASE」には、行政、移住者、地元住民の連携で、地域に根ざした土着ベンチャー企業が延べ30社以上が入居し、起業家人材や子育て世帯のUターンが増加しました。

その秘密、知りたくないですか？

14:25 - 15:35

講義

事例紹介 2
～移住したい街7年連続No.1
千葉県いすみ市のブランディング戦略～

千葉県いすみ市役所水産商工観光課班長

荘司 和則 氏

「何もありません」がキャッチコピーのいすみ鉄道が走るいすみ市。何も無いのに何故移住したい街No.1なのか、何故そんな街を移住者が目指してくるのか、何故小商いが盛んなのか、何故メディアに取り上げられるのか、どこにそんな人材がいるのか、一体行政はどんなことを仕掛けているのだろう。

その秘密、知りたくないですか？

15:50 - 17:00

討議

課題演習

法政大学現代福祉学部教授

関司 直也 氏

班ごとに分かれ、それぞれの自治体の地域産業の現場で直面する課題や自身が把握する地域産業の振興に関する効果的な施策や事例について意見交換し、互いの自治体の共通点や差異、悩み等を共有することで自身の自治体の課題解決の糸口を探ります。

17:00 - 17:45

討議

課題演習

引き続き、班ごとに分かれ、それぞれの自治体の地域産業の現場で直面する課題や自身が把握する地域産業の振興に関する効果的な施策や事例について意見交換し、互いの自治体の共通点や差異、悩み等を共有することで自身の自治体の課題解決の糸口を探ります。

